～校長通信～

ふたばっ子とともに

R5. 6. 23

６月１２日（月）は、浜松市では「いのちの大切さについて考える日」でした。
６月５日(月)～９日（金）の１週間の中で、各クラスにおいて道徳等の時間を使って「いのちの大切さについて考える」活動をしました。
６月１４日(水)には、朝会で、私が子供たちに向けて「いじめを起こさないために考えたいこと」と「命を大切にする理由」についての話をしました。
朝会で、私が話した内容についてお伝えします。

「優しさパワー」と「生きる意味」

みなさん、おはようございます。
６月１２日は、浜松市では「いのちの大切さについて考える日」です。その日が近いので、命についてのお話をします。

―中略―

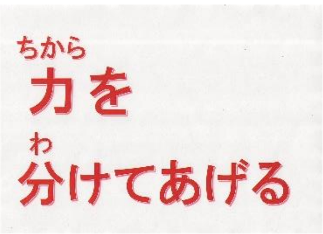
先日の「こころの日」の放送では、「命は１つしかない」という話を聴きましたね。そこで、みなさんが、「『命』を大切にしましょう」といわれるのはなぜか。また、その「大切な命」を奪うことにもつながってしまう「いじめ」を、どうしたらなくすことができるのか。今朝は、全校のみんなで一緒に考えてみましょう。

まず、みんなの「いじめ」が起きないようにするために大事なのは何か…今日は、先に答えを言ってしまいます。それは、「やさしさ」です。「なんだか当たり前な感じがするな」と思った人がいるでしょう。では、なぜ「やさしさ」が大事なのかをお話しますね。

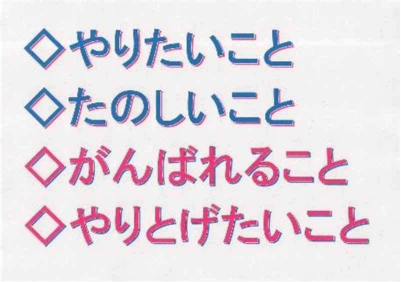
さて、この本を読んだことがありますか。（本を提示する）
そう「あんぱんまん」の本です。図書室にあります。この本は、皆さんが知っているアンパンマンとは、違いがあるのが分かりますか。
よく気付きましたね。本のタイトルが、ひらがなです。１年生ももう習い

ましたから、読めますね。
みなさんがよく知っているのは、こちらのアンパンマンではないでしょうか。（イラストを提示する）
実は、この本は、あんぱんまんの最初の絵本なのです。この本が出版されて、世の中の子供たちにアンパンマンが広まっていったということです。

では、アンパンマンは、どのようにして元気のない人や力が出ない人を元気付けるか知っていますか。
よく知っていますね。アンパンマンは、元気のない人や力が出ない人に自分の顔を食べさせてあげて、元気や力が出るようにしてあげますよね。
みなさんが、「だれかに優しくする」とか「誰かを助ける」のも、アンパンマンと同じで…と言っても、顔を分けてあげることはできませんから、みなさんの持っている「優しさパワー」、つまり「やさしさ」を分けてあげているのだと、先生は考えます。



そして、アンパンマンは、自分の顔を食べさせてあげるとどうなりますか。そう、力が出なくなりますね。実は、みなさんも同じ。困っている人や悩んでいる人、落ち込んでいる人を励ましたり勇気付けたり、元気付けたりするために「やさしさ」を分けてあげると、アンパンマンのように少しくたびれます。
でも、みなさんは「やりたいこと」や「楽しいこと」、「頑張りたいこと」や「やり遂げたいこと」があると、自然にいろいろな「力」がたまって、「優しさパワー」も満タンになるのです。だから、またたれかに「やさしさ」を分けてあげられるようになるのです。

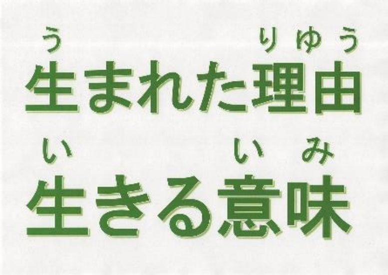


そう考えてみると、誰かの悪口を言ったり、誰かに意地悪をしたりして、友達を嫌な気持ちや辛い思いをさせる人は、きっと「優しさパワー」が満タンではないのでしょう。だから、相手が辛い思いや悲しい思いをする「いじめ」をしてしまうのだと思いませんか。そういう人は、よく自分のことを見

つめてみると、たぶん「やりたいこと」や「楽しいこと」、「頑張りたいこと」が、「優しさパワー」満タンの人よりも少ないのかもしれません。先生が「『やりたいこと』を見つけて、挑戦してください」とお話しするのは、みなさんが「いじめっ子」にならないためにも大事なこと。だから「やりたいこと」や「楽しいこと」があるのが、とても大切なことだと分かりますよね。

　意地悪な「いじめっ子」にならないために、自分の「優しさパワー」が満タンかどうか、時々、確かめてくださいね。

　ところで、みなさんは「アンパンマンのマーチ」を知っていますか。この歌の中に、「何のために生まれて　何をして生きるのか」という歌詞と、「何が君の幸せ　何をして喜ぶ」という歌詞があります。先生は、この歌を聴くと「命を大切にしよう」というメッセージが伝わってきます。この歌は、わたしたちは「生まれた理由」や「生きる意味」「自分の幸せ」を見つけるために生きているんだよと教えてくれます。だから、先生は「生きる」というのは、その「答えを探す旅をしていること」だと考えています。



　でも、その答えは、なかなか見つかりません。みなさんと一緒に過ごしくださる先生方も、みなさんのおうちの方も、世の中の多くの人に質問したとしても、「これが、私の答えです。」と言える人は、もしかしたらとても少ないかもしれません。もちろん、私も、自信を持って言える答えは、まだ見つかっていません。だから、「生きる」のです。そのためには、「命」を大切にしなければいけません。いつ、自分の答えが見つかるのか…それを楽しみにしながら、あなたの「一つしかない命」を大切にしてください。

　最後に、**「いじめ」は、絶対にいけません。**

　「いじめ」は、人の命を奪ってしまうほど良くないことです。もしも、だれかにいじめられたり、「いじめ」を見たりしたら、すぐに先生や周りの大人に知らせてください。

今日は、あなたが「いじめ」を起こさないために、また、「命」を大切にするために考えてほしいことを伝えました。

みんなで、**自分の命も、みんなの命も大切にできる双葉小**にしたいですね。

残りの１学期、「優しさパワー」満タンで頑張りましょう。

子供たちは、みんな「優しさ」や「思いやりの心」をきちんと持っています。

でも、それらを「誰かに優しくする」「周りの人に思いやりの心で接する」という形で表すのは、やはり自分自身の心が何かしらプラスの感情で満たされていないとなかなか難しいのではないかと思われます。

子供たちがプラスの感情を抱き、それで満たされる場面は、日々の生活の中で「やりたいこと」や「がんばりたいこと」、「乗り越えたいこと」など、寸暇を惜しんで、夢中になって取り組むことができる「何か」と向き合っている時なのではないかと考えます。

私は、これまで多くの子供たちとともに過ごしてくる中で、子供の心の中に自分ではどうすることもできない隙間があったり、ある出来事をきっかけにぽっかりと穴が開いたりすると、なかなか自分に自信が持てなくて、勇気を出して挑むこともできなくて…そういう状況からくる不安やイライラが、人をうらやんだり、ねたんだりする気持ちにつながっているのかもしれないなと考える場面が幾度となくありました。

子供たち誰もが備えた「優しさ」を、双葉小のみんなが誰かに伝えることができるように、今後も、「やりたいこと」を見つけ、挑戦する子供たちを、全職員で支援していきたいと思います。

また、話の後半は、どちらかというと高学年の子供たちに向けてという色が濃くなりました。ただ、「生きる意味」について少しずつでも考えることは、きっと自分自身と向き合う時間を持つことにつながると考えます。「楽しい毎日」を送りながら、「ぼくは…」「わたしは…」と、今を生きていることの尊さや未来を生きるために学んでいることの価値を、しっかりと見つめられる人に育ってくれたらと願っています。